

名古屋での福祉フォーラム

活動先：名古屋キャンパス（鶴舞）

まず、最初に発表をしたのは高浜高校福祉科3年生である。高浜市の福祉の調査や学んだことの発表があった。クイズ形式で高浜市と全国を比較するというユニークな考えがとても印象的であった。そして、市内を走っているバス「いきいき号」という話では市内のマップを作り障害者の人から一般の人まで乗れるようになったということをもとにどこに行くことができ、何ができるのかをわかりやすく説明していたのである。それ以外にも生徒たちは実際に三河高浜駅の前の「いきいき広場」という公共施設に行き職員さんたちの話を聞いたのである。「いきいき広場」は地域の活性化と市民の QOL の向上を目指して、福祉、健康づくり、生涯学習を結びつけたサービスを提供しているところである。市民のために福祉の拠点を作ろうという、現市長の案で「いきいき広場」ができたのである。

次に三重県立上野商業高等学校福祉科3年生の生徒たちの社会福祉演習の授業についての「大変なところ、面白いところ」についての発表があった。「介護とは？」というテーマだけで生徒たちが自ら考え活動をしていく授業である。生徒たちはテーマが広すぎて時間配分が分からず悪戦苦闘しながらもこの授業の大切さを学んでいったのである。それは、「時間が限られているのでみんなで協力してよりよく深く話し合いができ、コミュニケーションが取れるのでいろいろな人の意見が聞ける」や「一人ひとりの意見をいろいろな視点から見て物事を考えることができる」などがあつたからである。活動を通して生徒たちは、「自分は違う考え方だったけれどこんな考え方もあるんだ」など多くの視点から介護や福祉について考えることができたのである。

次に、日本福祉大学付属高校ボランティア部3年生の活動報告があつた。生徒たちは校内だけでなく校外（保育ボランティア、あしなが募金）でも活動しているのである。その中で特に力を入れているのは手話コーラスである。始めるにあたって聴覚障害の人、部員全員で悩んだことがあつた。その理由として聴覚障害の人には曲やリズムが分からない。そのような状態で手話コーラスというものが本当に必要なかを検討し続けたのである。しかし、生徒たちの目的として、手話というものは健常者にも使える、不思議と思わない、そういうものにしたいという思いから始まったのである。最後に手話コーラスで「ひまわり」という曲を発表してくれたのである。

次に「総合演習Ⅰ」岡・水谷ゼミの発表があつた。彼らは学内フィールドワークをしたのである。それによってノートテイク、OHCテイク、パソコンテイクをしたことによって、サポート学生の配慮や、学習効果があることがわかつたのである。学内ではゴミ拾いをしてどの時間にどのようなゴミがあるのかを調べたのである。実際に学外に自分たちの足を運び帰りの通学路に危険はないか？やアイマスクをつけてキャンパスを回るなど身の周りのバリアフリーを探すなどして手すりや点字ブロックの大切さを実感したのである。夏には特別養護老人ホームや小学校に行くなどして実際に働いている職員さんの話を聞くなど

学内から学外へと活動が発展していったのである。

次に総合演習Ⅱの発表があった。福祉フォーラムでは岡・家田ゼミが4月から活動してきたことについて発表をしたのである。岡ゼミ2年生では教員や福祉にかかわる仕事について勉強している仲間19名で活動をしてきたのである。その19名の中でも興味・関心のあることについて6つのグループに分かれサービ斯拉ーニングやフィールドワークに関する活動をしてきたのである。その6つのグループのテーマの対象は小学校における特別支援学級、環境・福祉施設、篠島、養護学校、高校生ビデオ制作支援であった。2年生、付属高校の生徒たちの発表を終えて後期はフィールドワークでの目標を高く持ち、仮設と結論・結果の違いについてどうしてそうなるのかなどについて考え、発展させながら活動をしていこうと思ったのである。他にも1・3・4年生、高校生の活動を聞いてまた違った視点で物事を考えることも大切なのではないかと感じたのである。なぜなら、自分が見えている視点と他人から見えている視点は違うからである。そこに気付くことができはじめて発展につながるのではないかと感じたのである。普段の学校生活だけでは聞くことのできないような話が多かった。特に自分も含め高校は普通科を卒業してきた人にとっては高校の時から福祉について自ら調べ活動をしている生徒たちが輝いてみえたのである。

最後に高校生ビデオ制作支援の発表があったのである。これは大学生と高校生が協力し合いビデオを作るというものである。高校生の抱えている福祉のイメージは高齢者介護などの狭い領域にとどまり、進路選択においても「人の役に立ちたい」、「幸せをつくる仕事にかかわりたい」と思いながらも、広い意味での福祉の豊かさや広がりについて十分にイメージを持つことができないことが多いと思う。そのような思いから進路選択や広い意味での福祉への理解を役立てていくことを目的として、高校生自身の目線に立ったビデオ制作をすることになったのである。この活動を通して、大学生たちは高校生とどのように接すればいいのか、高校の先生たちがどのように生徒とコミュニケーションをとっているのかについて学んだのである。他にも、高校生のスポンジのような吸収力を目の当たりにして、日に日に成長していくのを感じ取ることができたのである。福祉フォーラム全体を通して自分たちと近い年代の人たちがこんなにもたくさんの活動をしているのだと感じたし、すごくいい意味で刺激になったと思う。